

学校だより

かしわの葉

美幌町立美幌小学校 第7号

〒092-0062 網走郡美幌町西2条北4丁目1番地 TEL 0152-73-2019 受付時間 7:40~17:00(通常)

【学校教育目標】

できること いっぱい みつけよう
自立する柏っ子

◇やりとおす ◇かんがえる

◇つたえあい ◇ふれあい

◇みとめあい

令和6年 9月25日 発行

文責 校長 中村 厚志

令和6年度学校評価アンケート(1回目)の結果から

7月下旬に、本校の児童・保護者・教職員を対象に行った今年度第1回目の学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

今回のアンケートは、今年度の重点教育目標である『つなぐ・つながる 美幌小学校』における「学びをつなぐ」「心をつなぐ」「地域とつながる」の重点項目について、これまでの状況を捉えられるよう実施しました。児童アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートを並べ、関連項目ごとに、それぞれの捉え方の違いが分かるように整理しています。

また児童アンケートには、経営理念のキーワードである『ウェルビーイング』の観点からの質問項目を加え、全国学力・学習状況調査の児童質問紙における項目に合わせて、全国と比べて児童の傾向が見えるようにしています。



集計の結果、児童アンケートでは、「学校の授業はわかりやすい」「体育の時間や休み時間などで、たくさん体を動かしている」「だれにでも元気にあいさつをしている」「やさしい言葉づかいと行動を心がけて、友達を大切にしている」の項目で評価が高く、子どもたちが友達と仲よくしながら、意欲的に学校生活を過ごしている様子が読み取れました。

保護者アンケートでは、「お子様は、楽しく学校に通っている」「お子様は、自分のよいところを知っている」等の項目でよい評価でした。引き続き子どもたちが楽しく学校に通えるよう、教育活動を充実させてまいります。

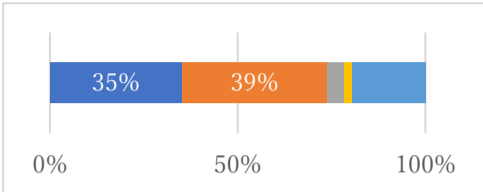
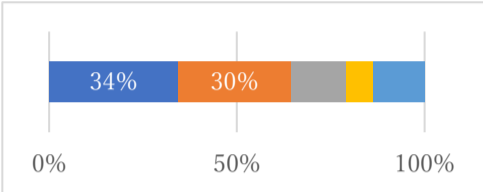
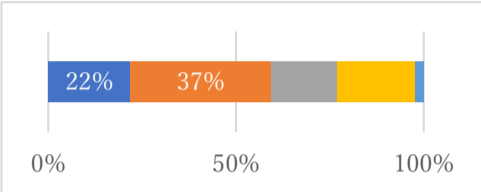
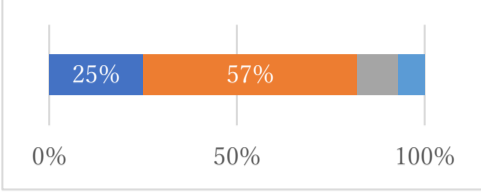
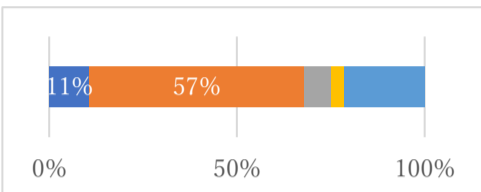
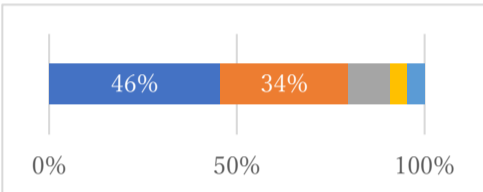
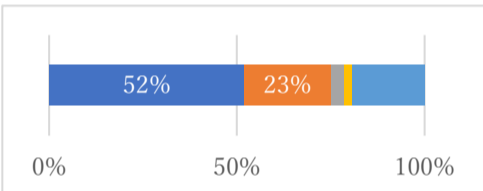
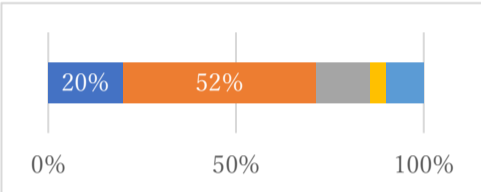
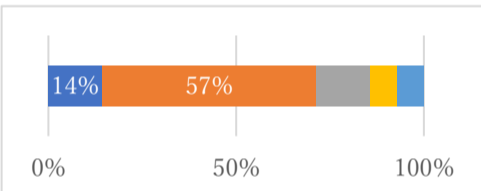
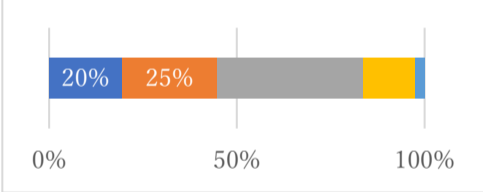
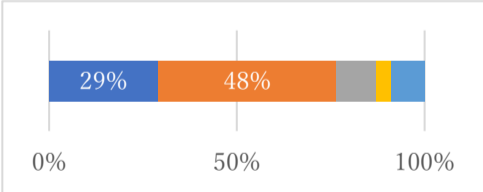
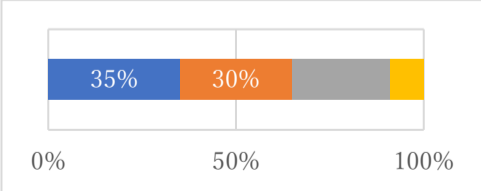
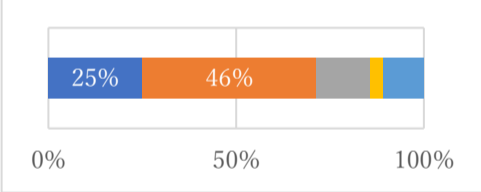
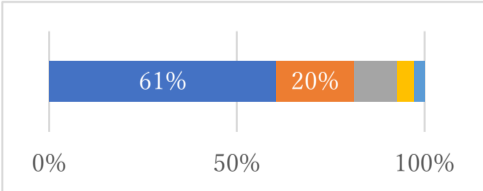
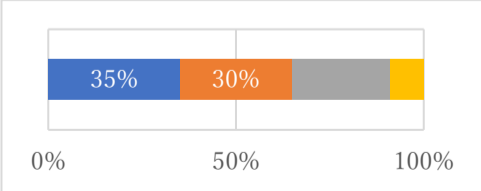
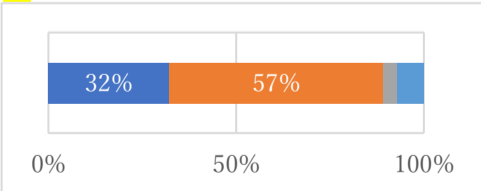
児童アンケート、保護者アンケートの両方から見られる課題は、「学習習慣・読書習慣の定着」です。子どもたちが主体的に学習や読書に取り組めるよう、よりよい取組は継続し、さらに情報発信に努めてまいります。

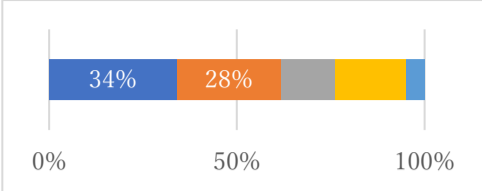
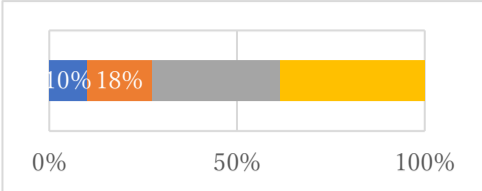
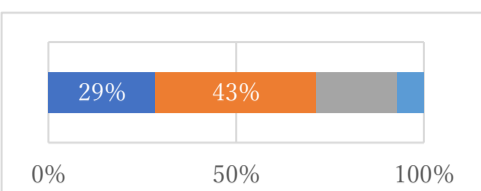
保護者の皆様からの回答数は91件でした。なお、記述回答でいただいたご意見は、教職員・学校運営協議会・PTA役員会で共有し、今後の指導計画や学校運営の在り方を見直す際の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

《アンケート結果の見方》

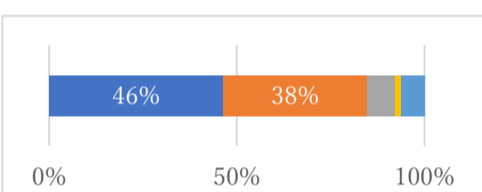
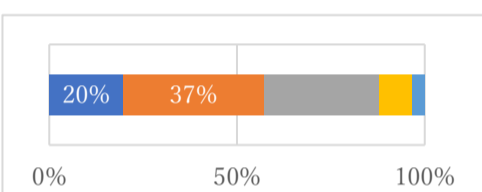
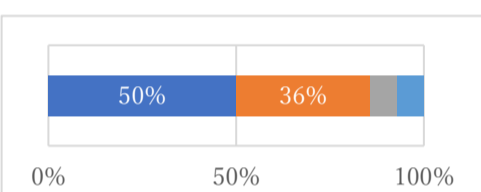
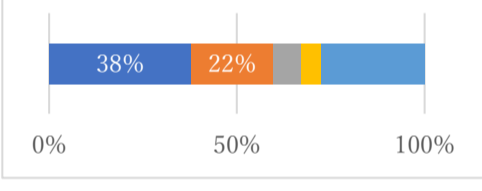
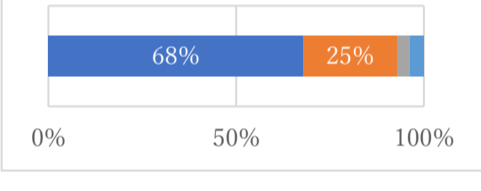
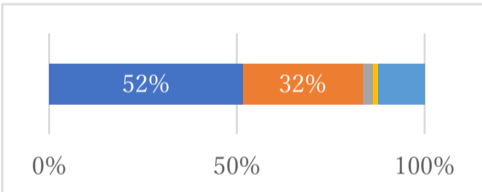
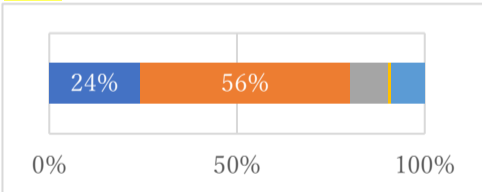
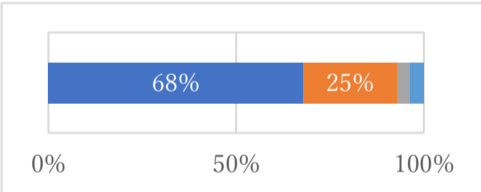
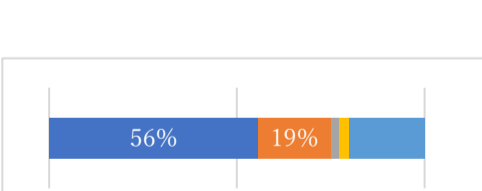
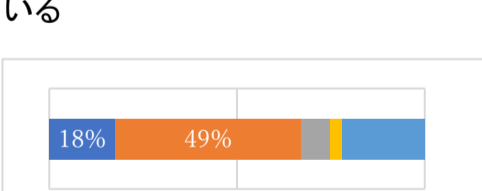
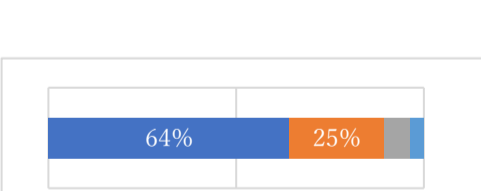
- ・帯グラフ……対象の回答者全体を100とした時、左から
「している(思う)」など、肯定的回答
「どちらかといえば、している(思う)」など、やや肯定的回答
「どちらかといえば、していない(思わない)」など、やや否定的回答
「していない(思わない)」など、否定的回答
「わからない」
の順に並べ、その割合を表しています。
肯定的評価、やや肯定的評価のみ数値を表記。(単位%)
- ・肯定的・やや肯定的な回答が80%以上の質問項目は、 でぬりつぶしています。
- ・肯定的・やや肯定的な回答が50%以下の質問項目は、 でぬりつぶしています。
- ・参考として、結果から窺える考察を加えています。

R6 学校評価アンケート（1回目） 児童・保護者・教職員 結果比較

	重点項目	児童	保護者	教職員
○ 学びをつなぐ	◎ 学習規律・家庭学習習慣の定着等の学びの基盤づくり	<p>・「学習のきまり」(学習規律)を守って学習に取り組んでいる</p>  <p>・自分で目標を決めて家庭学習(宿題・自主学習・読書)に取り組んでいる</p> 	<p>・お子様は、家庭学習の習慣が身についている</p> 	<p>・「学習のきまり」(学習規律)の定着を図っている</p>  <p>・家庭での学習習慣の定着を図っている</p> 
	◎ わかる・できるが実感できる授業の習慣化とICTの活用推進	<p>・学校の授業はわかりやすい</p>  <p>・端末を活用して学習することが、自分の考えを整理したり、友達のいろいろな考えを知ったりすることに役立っている</p> 	<p>・お子様は、「学校の授業は分かりやすい」と言っている</p> 	<p>・ICTを効果的に活用できる指導や授業展開を工夫している</p> 
	◎ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業	<p>※中学校区共通項目(4年生以上)</p> <p>・自分の考えや文章を書くのが好き</p>  <p>・理由をはっきりさせながら、文章で説明したり、表現したりすることができるようになってきている</p> 	<p>・お子様は、進んで運動や外遊びをしている</p> 	<p>・「言語的な表現活動」(主に書く活動)を日常の授業に位置付けている</p> 
	◎ 体育授業の工夫改善	<p>・体育の時間や休み時間などで、たくさん体を動かしている</p> 	<p>・お子様は、進んで運動や外遊びをしている</p> 	<p>・運動量のある体育授業や特別活動を行うなど、体力向上の取組をしている</p> 

◎読書活動、学校図書館の充実	・学校や家などで毎日読書している 	・お子様は、家庭で読書に親しむ習慣が身に付いている 	・学校図書館の積極的な活用を働きかけるなど、読書に対する関心意欲を高めている 
----------------	---	---	---

・家庭学習の取組率を向上させるには、「やらされ感」を減らし、自主的な学習に取り組めるかどうかにあります。今後も、家庭学習の取組が学校の授業と連動し、子ども自身が家庭学習に必要感や有用性を感じることができるよう引き続き取組を進めていきます。
 ・先生方の日常的な教材研究、校内研修を中心とした授業改善の結果、「わかりやすい」が多い結果になったと考えられます。今後も継続していきます。
 ・ICTを活用した授業展開が日常的に行われています。今後も継続しながら、より効果的な実践成果について先生方で交流し、主体的・対話的で深い学びを一層充実させていきます。
 ・校内研修でも取り組んでいますが、「言語化」「文章化」が本校や中学校区での課題の1つとなっています。今後も授業の中に書く活動を位置付けていくことが大切になりますが、「理由を書く」「条件（文字数・キーワード）に合わせて書く」を全校的な重点とするなど、教科横断的に日常授業のねらいにあわせて取り入れていくことが必要だと考えています。
 ・多くの子が体育や休み時間に、たくさん体を動かしています。自ら運動に親しもうとする態度を育むとともに、健康な体づくりの取組を進めていきます。
 ・学校での読書量に比べ、家庭での読書量がとても少ないと考えられます。学校での読書量を最低限確保しつつ、家庭学習とあわせて、ご家庭と連携して推進を図っていくことが大切だと考えています。ご協力をお願いします。

○ 心 をつ な ぐ	◎あいさつや言葉づかいなど、基本的な生活習慣の定着	・だれにでも元気にあいさつをしている 	・お子様は、誰にでも元気にあいさつをすることができる 	・率先して挨拶ができるように指導している 
	◎児童会活動や行事など、一人一人が活躍できる場面の設定(自己肯定感の育成)	・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う 		・長所や努力している姿を積極的に探し、本人や周りの人に伝えている 
	◎道徳教育・人権教育の推進	・やさしい言葉づかいと行動を心がけて、友達を大切にしている 	・お子様は、やさしい言葉づかいと行動を心がけて、友達を大切にしている 	・友達を大切に、やさしい言動で接するように指導している 
	◎生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実(いじめ・不登校の早期発見)	・自分の悩みや心配事などを、先生が聞いてくれる 	・学校は、子どもたちの悩みや問題行動について、適時適切に対応している 	・子どもたちの悩みや問題行動について、適時適切に対応している 

・学校での挨拶については定着が見られますが、学校外(家庭)での定着度は低いと考えられます。
 ・数値から、何かあれば相談できる状況にあると見てとれます。これからも日常的に子どもたちに目を配った担任による学級経営に加え、担外の先生方も含め学校全体で子どもたちを見守り育てていきます。また、これを生かしながら、今後も積極的に児童1人1人の「よさ」を伝えていきたいと思ひます。

○ 地 域 と つ な が る	◎地域人材や地域力の活用と地域学習の推進			・地域の「ひと・もの・こと」に関わる体験活動の充実を図っている
	◎9年間を見通した小中連携教育の推進			・義務教育9年間を見通し、幼稚園・保育園・中学校との情報交流などを通して連携した取組をしている
	◎家庭や地域と連携した望ましい生活習慣の定着		・学校は、子どもの学習や生活の様子など、教育活動の様子を発信している 	・子どもの学習や生活の様子など、教育活動の様子を発信している
<ul style="list-style-type: none"> 各学年で行っている校外学習などで地域人材や地域教材の活用が見られています。学校の計画に位置付け、次年度へ引き継いで活用することで、準備等の負担を減らしつつも学習内容の充実につなげていきます。 小中連携については、中学校区（主に北中。東陽小）での、卒業生等の情報共有や授業交流を進めていきます。 学校の情報発信について、ある程度評価をいただいていると考えています。これまで以上に、家庭と学校が情報を共有できるよう、よりよい情報発信に努めてまいります。 				
○ そ の 他	*ウエルビーイングの向上	・学校(に行くの)は楽しいと思う 	・お子様は、楽しく学校に通っている 	
		・自分にはいくつかよいところがあると思う 	・お子様は、自分のよいところを知っている 	
		・将来の夢や目標を持っている 	・お子様は、将来の夢や目標を持っている 	
<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しい」と感じている児童の割合が、昨年度と同程度であり、概ね学校生活に満足できている児童が多いと考えます。授業だけでなく、児童会・クラブ・行事等も含めて、「わかる喜び・できた喜び」を得られる場面を今後もつくっていきます。 「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合は全国平均並みとなっており、自己肯定感については低くはないと考えています。一方で「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合はやや低いという状況です。子どもを見ているとついつい気になるところやよくないところに目が行きがちになり、そういう部分に気づいたり直したりしていけるような指導はもちろん大切ですが、それと並行して今後も子ども一人一人に寄り添い、時には褒めたり、時には共感したり、時には尊重したりなど、見とったことを言語化して伝えていくように努めてまいります。 				

※保護者アンケート記述欄より

スポーツデーに関して、いくつかご意見をいただいております。本校では、「運動の楽しさを味わう」「自己が伸長する喜びを実感する」「チームワークの大切さや協力することの良さを学ぶ」ことをねらいとし、運動会という名称ではなく「スポーツデー」として実施しています。近年、練習に相当な負担を感じたり、勝敗にこだわりが強すぎたりして、学校行事への参加に抵抗感のあるお子さんも少なからずいらっしゃいます。それらも踏まえ、練習や準備等に過度に時間をかけるのではなく、日常の体育学習の延長・発表の場として児童が取り組める形にすることを念頭に、「短距離走」と「団体種目」の2つの種目に精選し、ねらいの達成をめざしています。なお、国（中央教育審議会）においても、学校行事の負担軽減のため、それぞれの行事の教育的価値を検討し、教育上必要とされるものに精選することが必要との提言がされています。ねらいの達成を第一に、どの子にとっても「ウエルビーイング」な活動となるよう必要な改善を図ってまいります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。